

まちかねミュージアム

目次：

まちかねミュージアム 創刊について	1	企画展・特別展の予定	3
こんなにやってるアウトリーチ	2	こんなにやってたアウトリーチ	4
なんやこりゃ EXPO'70 ー大阪万博の記憶とアート	2	私にもできるアウトリーチ	4
サイエンスカフェ@待兼山 (2020 年度)	2	博物館のデジタル化対応について	4
連載コラム「中村貞夫とその芸術」	3	館員紹介 辻野 博文	4
CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国	3		



大阪大学総合学術博物館ニュースレター まちかねミュージアム創刊について



“地域に生き世界に伸びる”という大阪大学のモットーのもと、総合学術博物館は平成14年に設立されました。私たちは大阪大学にある二つの登録有形文化財を拠点にしてきました。一つは大阪大学会館

(旧イ号館、昭和3年竣工)、もう一つが待兼山修学館(昭和6年竣工)です。そしてこの二つを結ぶのが貴重な里山である「待兼山」の遊歩道です。私たちはこの二つの登録有形文化財と歴史のある待兼山の自然とともに多様な活動をしています。

常設展では、本学の精神的源流である懐徳堂・適塾の資料や、巨大なマチカネワニの化石、真空管式コンピュータ、また待兼山遺跡の出土品などを展示しています。企画展・特別展では、学術的な研究成果を反映させるとともに、“ユニバーシティ・ミュージアム”ならではの特色ある視点で、ユニークな展覧会を開催しています。さらに様々なレクチャー、

サイエンス・カフェ、貴重資料のデータベースの公開、博物館叢書の刊行、またアートを軸にした社会人育成講座など、多分野にわたる大阪大学の研究成果を現代的な手法で市民に紹介してきました。この様々な取組を通して、私たちは市民と共に創造する、社会に拓かれた交流型ミュージアムをめざしています。

この度、私たちの活動をより良く理解して頂くために、ニュースレターを刊行することにいたしました。私たちは来年には設立20年を迎えようとしていますが、大学博物館としてはまだまだ成長過程にあり、これまで以上に活発な活動を展開していきたいと考えております。地域の皆様や学内の教職員・学生など多くの方々が、大阪大学の生み出した「人・モノ・情報」との交流をゆったりとした気分で味わい楽しんでいただけるよう願っています。

大阪大学総合学術博物館館長 永田 靖

令和3年1月

こんなにやってるアウトリーチ

大阪大学総合学術博物館 第14回特別展 なんやこりゃ EXPO'70 —大阪万博の記憶とアート



開催期間：2020年06月22日(月)

～08月01日(土)

会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館

主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市

共催：豊中市市民ホール指定管理者

協力：北大阪ミュージアム・ネットワーク、京都市立芸術大学、公益財団法人阪急文化財団、吹田市立博物館、大阪大学21世紀懐徳堂

1970年に大阪・千里丘陵で開催された日本万国博覧会は、アジア初かつ日本で最初の国際博覧会（一般博、現・登録博）であり、戦後復興をとげた日本を海外に発信する文化史上の一大イベントでした。

同展覧会では、大阪の地域性も踏まえたアートの視点を中心に70年大阪万博を振り返りながら、この巨大イベントに、地域や大学はどのように関わったのかも検証しました。

特別展動画配信のお知らせ

第14回特別展の展示作品を紹介する動画全4章をYouTubeにて配信しております。展示を担当した教員が自ら万博当時の貴重資料等について詳細に解説しております。新型コロナウイルス感染拡大防止等で、当館にお越しになれなかった方、また、遠方にお住まいの方にも展示をご覧いただく機会にできればと存じますので、ぜひ多くの方にご覧いただけますと幸いです。

第1章「万博とはなんだろうか？」

第2章「映像と音響のパビリオン」

第3章「具体美術協会と大阪万博」

第4章「万博の時代の北大阪、大阪大学」

[https://www.museum.osaka-u.](https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-10-09-14122/)

[ac.jp/2020-10-09-14122/](https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-10-09-14122/)



サイエンスカフェ@待兼山(2020年度)

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。ゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。

わかりやすい言葉で“科学”を語ることで、専門家と一般の方の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。大阪大学で行われている最新の研究を広く人々に紹介するとともに、普段の中で接する機会が少ない専門家と一般の方々との間のコミュニケーションの場となることを目指しています。

定員：各回とも50名

参加費：無料

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市立中央公民館

今年度のサイエンスカフェはオンライン会議アプリ「Zoom」による配信で行いました。各カフェの内容については、Webページをご覧ください。

[https://www.museum.osaka-u.](https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-11-05-14224/)

[ac.jp/2020-11-05-14224/](https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-11-05-14224/)



各カフェの紹介

No. 157: 「音楽のまち」はどのように創られたのか

コーディネーター：肥後 楽 (文学研究科)

実施日：2021年2月20日(土)

時間：10:30～12:00 対象：高校生以上

No. 158: 磁石の力で観る 蛋白質のはたらき

コーディネーター：宮ノ入 洋平 (蛋白質研究所)

実施日：2021年2月20日(土)

時間：14:00～15:30 対象：高校生以上

No. 159: 匂いを感じるしくみ

コーディネーター：竹内裕子 (生命機能研究科)

実施日：2021年2月27日(土)

時間：14:00～15:30 対象：高校生以上

No. 160: 対話型調停の会話分析 —紛争解決の営みを解きほぐす—

コーディネーター：李 英 (法学研究科)

実施日：2021年3月13日(土)

時間：10:30～12:00 対象：高校生以上

No. 161 : 体の中の葉のうごき

コーディネーター：辻野 博文（総合学術博物館）

実施日：2021年3月13日（土）

時間：14:00～15:30 対象：高校生以上

連載コラム「中村貞夫とその芸術」

大阪大学総合学術博物館は、豊中市立文化芸術センターとともに2018年に洋画家中村貞夫の回顧展「洋画家 中村貞夫 四大文明の源流を求めて 探究の旅、描きとめる熱情」を開催しました。大阪に生まれ、大阪大学を卒業した中村貞夫は、現在も制作を続ける油絵画家です。このコラムでは、展覧会では伝えきれなかった中村の魅力を、中村貞夫に関わりのある論者から、様々な視点を通じ伝えていきます。



《白ナイル・マーチンソン滝1（ウガンダ）》1998年

第5回 2020年12月11日

橋爪節也「中村貞夫の芸術 四大文明から大阪風景への回帰」vol.4

第6回 2020年12月18日

橋爪節也「中村貞夫の芸術 四大文明から大阪風景への回帰」vol.5

第7回 2020年12月25日

橋爪節也「中村貞夫の芸術 四大文明から大阪風景への回帰」vol.6

第8回 2021年1月20日

武澤里映「中村貞夫の視覚構造—「世界四大文明」シリーズにおける遠近を交錯する視界—」第1回

第9回 2021年2月3日

武澤里映 中村貞夫の視覚構造—「世界四大文明」シリーズにおける遠近を交錯する視界— 第2回

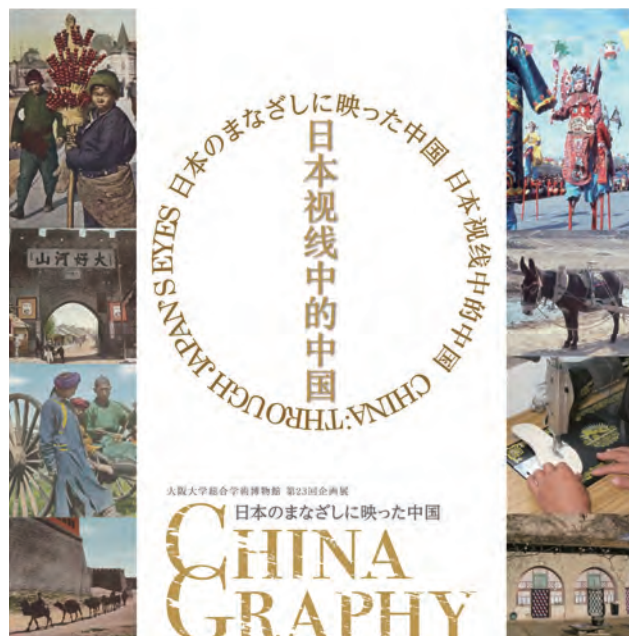
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>

/column_nakamurasadao/



大阪大学総合学術博物館 第23回企画展 CHINA GRAPHY 日本のまなざしに映った中国

近代以降の日本人旅行者や研究者による中国各地の記録と表象（絵葉書・写真等）をテーマにした展覧会を開催しました。国際日本文化研究センター所蔵資料および本学言語文化研究科と総合学術博物館教員の撮影した資料を活用し、戦前・戦後における中国各地の社会的変化、日本人の中国認識の変容、とりわけその間の両者の連続と断絶を検証し、戦前から現在へと至る記録・表象の変遷をたどりました。



会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

会期：2020年10月31日（土）～

2021年1月30日（土）

主催：大阪大学総合学術博物館、

国際日本文化研究センター

共催：大阪大学大学院言語文化研究科

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-10-22-14106/>



企画展・特別展の予定

「街に生きる学問—学都大阪の礎・つなぎあう想い—」

会期：2021（令和3）年4月下旬～8月中旬を予定

概要：大阪大学創立90周年 / 大阪外国語大学創立100周年記念事業として、本学の精神的源流である大坂町人の学問所（懐徳堂、適塾）、一般教養教育のルーツである旧制高等学校（大阪高等学校、浪速高等学校）、外国語学部の前身である大阪外国語学校・大阪外国語大学などを中心とした貴重な資料を展示し、過去から受け継いだ学知や人々の想いがどのように紡ぎ合い歴史を作ってきたか、またそれが

現在の大阪大学にどのようにつながったかを俯瞰する展覧会を開催します。あわせて、展覧会の内容に関するミュージアムレクチャーや市民向けシンポジウムも開きます。

こんなにやってたアウトリーチ

ここでは大阪大学総合学術博物館で過去に行ったアウトリーチ活動を紹介しますが、すべてを紹介しきれませんので以下の Web ページへのリンクよりご覧ください。

過去の展覧会

企画展や特別展などを毎年数回以上行っています。

詳細については、以下の URL をご覧ください。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/special/old/>



過去のイベント

ミュージアムレクチャー、ワークショップ、サイエンスカフェ、こども体験、その他のイベントを毎年活発に行っています。

詳細については、以下の URL をご覧ください。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/event/old/>



私にもできるアウトリーチ

大阪大学総合学術博物館を、大阪大学の研究者の皆様のアウトリーチの場として活用してみませんか？簡単なところでは、サイエンスカフェ等のコーディネーターから、特別展まで、いろいろな規模のアウトリーチが可能です。まずは博物館・適塾記念センター事務室 (kyousou-museum-tekijuku@office.osaka-u.ac.jp) までお気軽にご相談ください。



博物館のデジタル化対応について

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症の世界的な流行のため、当館でも大阪府の要請に従い、2020年3月3日から6月20日まで休館といたしました。前ページで紹介した第14回特別展も当初の開催時期を変更し、当館の開館とあわせて、6月22日からの開幕へと変更し、大盛況のうちに会期を終了することができました。しかしながら、世界的な流行は収束しておらず、当館に来館できない方

も多かった状況を鑑み、当館ではデジタル化に注力し、第14回特別展の動画を配信することといたしました。

また、当館の常設展示についても、より多くの方々に気軽に見ていただけるよう、展示品について大阪大学の教員らが解説した動画を、Web ページにて順次準備・公開しています。より多くの方々に、大阪大学総合学術博物館の魅力を伝え、さらに身近に感じていただけるよう、努めてまいります。

館員紹介

資料基礎研究系 准教授 辻野 博文



2020年4月から大阪大学総合学術博物館 准教授に着任いたしました。前職では、大阪大学薬学研究科にて薬学・分析化学に関わる研究に従事しておりました。

総合学術博物館は文学、理学、薬学など様々な知的背景の教員が所属しており、多くの知識が交流する場があります。そのような魅力的な場で、私の専門性を活かした研究を推進するとともに、サイエンス・カフェや貴重な展示品紹介などを通して、広く市民のみならずと知を共有したいと考えております。また、学内外を問わず教職員・学生のみならず、地域のみならずの交流の場としての博物館の役割を果たせるよう努めてまいります。

編集後記

このたび大阪大学総合学術博物館においてニューズレター (ましかねミュージアム) を発行することとなりました。今後は、阪大博物館で開催する展覧会やイベント等、最新の情報を Web ページと共に発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 J.T.

大阪大学総合学術博物館ニューズレター
ましかねミュージアム
発行日 2021年2月22日
編集発行 大阪大学総合学術博物館
グローバル情報委員会
〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町1-20
大阪大学総合学術博物館 事務室
Tel: 06-6850-6284
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>